

平成30年3月23日（金）

平成29年度第3学期終業式 式辞

兵庫県立山崎高等学校長 野谷るり子

皆さん、おはようございます。春分の日も過ぎて、少しずつ春らしくなってきました。平成29年度を締めくくる日となりました。皆さんにとって、この1年はどのような年であったでしょうか。胸の中は充実感で満ちているでしょうか？2月28日に第70回卒業生224名が本校を巣立っていきました。それぞれの表情に自信と達成感があふれ、先輩として良き模範となってくれました。校内が少し寂しくなりましたが、4月には新入生を迎え、また一段と賑やかになることでしょう。卒業式の後には、終業式、入学式、創立111年目の始まり・・・それが当たり前のように思いがちですが、あらためて考えてみると、大変ありがたいことです。

3月11日、東日本大震災から7年を迎え、朝のSHRで全員が黙祷を捧げました。年度末の時期でしたので、当然7年前も卒業式や終業式、入学試験等が予定されていましたが、被災地ではそれらが実施できない学校が多くありました。それだけでなく、突然たくさんの尊い命が奪われました。（3・19付け神戸新聞）死者、行方不明者、震災関連死を含めて22,081人が犠牲になりました。兵庫県にも2月末時点で294世帯779人が避難されています。今日の第三学期終業式、自分の横には友達がいて、帰れば家族が待っている、実は当たり前ではなく、ありがたいことなのですね。なかなかあり得ないことなので「ありがたい」こと。そのことに気づき、感謝を表現することばが「ありがとう」。

先日、PTA広報誌譲交木93号の卒業生の文章にたくさんの「ありがとう」の言葉を見つけましたので、紹介します。

- ・この三年間は多くの人に支えられた三年間でした。次は私が多くの人を支えになろうと思います。本当にありがとうございました。
- ・友達や先生、家族の支えがあったからこそ、たくさん努力できました。そして、それが進路実現につながったと思っています。大学ではこれまで以上に勉強に励み、様々な人に恩返しをしたいと考えています。
- ・生徒会執行部で学んだことは数多くありますが、最も大切だと感じたことは仲間と協力し合うことです。協力して物事に取り組むことの大切さ、お互いを尊重することがいかに重要か・・・これがなければ執行部としての仕事は成しえなかったと思います。メンバーには本当に感謝しています。今までありがとう。

「ありがたい」ことに気づく優しさ、自分の気持ちを率直に表現する素直さがすばらしいと思います。感謝の気持ちを持つ人は、応援に応じてがんばろうとすることができます。卒業生に続き、私も3月末で山崎高校を卒業しますが、皆さんのこれからを楽しみにして、ずっと応援しています。新学年に向けて目標を立て、更に自分を成長させて4月の新しい出会いに備えてくれることを願っています。